

## 登山橋（伯耆町長山）

施設名	登山橋
概要	RC造、単連、 無ヒンジアーチ橋
位置	35.354416 133.437957
竣工	昭和9（1934）年3月
訪問日	2020年5月7日
訪問者	江原恭二



### 【訪問記】

新緑が美しい中、登山橋を訪れた。

道路上からは旧式の橋と認識できるが、昭和9年（1934年）竣工とは気が付かない。伯耆溝口駅から大山榭水原へ向かう旧道にある。上部には新設された県道45号の橋が見える。

この橋を訪れ、驚いた事は以下の事である。

大江川の深い谷を挟み、橋長63m、幅員5.5m、高さ約40mのアーチ橋が力強く架けられていたことである。また、鉄筋コンクリート構造でこの造形美を建設した技術に感動した。

当時の技術レベル、機器は現代とは比べようもないが、測量を行い、位置出し、位置決めし、支保工・足場の仮設、型枠、配筋、コンクリート製造、コンクリート打設など、大型重機のない中で、施工が行われた事を考えると、ワクワクしてきた。

骨材の調達は、大江川から採取したのか？コンクリート練は川床近辺で行い、タワーで垂直運搬し、道板上を水平移動したのだろうか？コンクリート強度確認はどのように実施したのだろうか？興味は尽きない。

資料<sup>1)</sup>によれば、昭和8年8月に着工、昭和9年3月に完成している。僅か7か月で完成させた技術力に驚かされる。

昭和9年当時、果たしてこの道を通った人々、車両ほどの程度のものかは想像がつかないが、観光名所・絵葉書になってもおかしくない風景である。

※資料1) 鳥取県 HP：県土整備部 技術企画課

【歴史的・文化的土木建造物等の資料公開について】登山橋

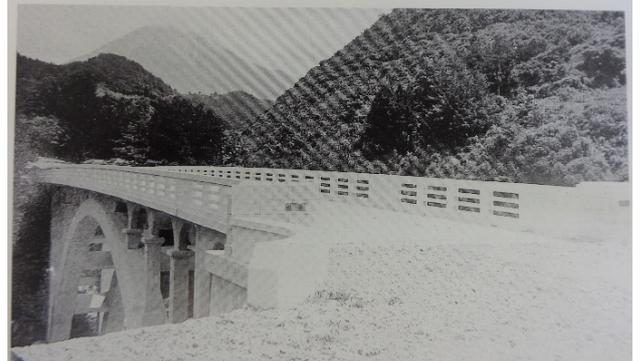
その他の資料

『鳥取県の近代化遺産』-近代化遺産総合調査報告書- P.P.139

1998年3月 編集：奈良国立文化財研究所、発行：鳥取県文化財保存協会



大山登山路の吊り橋 昭和5年につり橋が架けられ、伯備線湊口駅（伯耆町）から溝口自動車を利用して大山に行く人が多くなった。昭和9年に現在の永久橋になった。昭和5年ごろ



登山橋 昭和9年3月、当時話題になった鉄筋コンクリート橋。昭和10年ごろ 村上誠三撮影

昭和5年頃※ 吊りワイヤーと木材の組み合わせが新鮮に感じられる。

昭和10年頃※

村上誠三撮影



アーチ部分



アーチ部 鋼材腐食に伴うひび割れが確認できる。



※『大山今昔物語写真集』立花書院 発行者：榎 範之 平成20年6月